

赤川 友布子 氏の学位審査結果の要旨

主査：藤澤 順一

副査：中邨 智之、長沼 誠

膀胱尿管逆流を有する乳幼児の有熱性尿路感染症 (fUTI) の再発予防に、抗菌薬 ST 合剤の持続的少量予防投与 (CAP) が保存的治療として広く普及しているが、近年、小児期の腸内細菌叢の乱れが、その後の種々の疾患発症のリスクとなることが報告されていることから、申請者は ST 合剤による CAP が乳幼児の腸内細菌叢に及ぼす影響を検討した。

その結果、腸内細菌叢の多様性は、急性期 fUTI の抗菌薬治療直後には低下したものの、1-2 ヶ月後には、ST 合剤を予防投与した CAP 群および非 CAP 群の両群とも、同程度に改善・維持され、両群間で差異は認められなかった。一方、CAP 群では非 CAP 群と比較して、fUTI の主要な起因菌が属する腸内細菌目の増殖が、選択的に有意に抑制されており、ST 合剤の予防投与は fUTI の再発予防に有用かつ合理的な治療であると結論された。

この結果は、乳幼児の有熱性尿路感染症の再発予防に ST 合剤の持続的少量予防投与が有効であることを、腸内細菌叢の観点から支持する新しい知見であり、学位に値する研究成果である。